

公益財団法人国際文化フォーラム

2012 (平成 24) 年度事業計画書



公1 海外の小中高校における日本語教育と日本の文化についての理解を促進する事業

■くりっくにつぼんのリニューアル

日本語教師向け情報誌『Takarabako』『ひだまり』の両誌を 2011 年度に休刊し、日本情報の発信を「くりっくにつぼん」ウェブサイトへ一本化しました。これに伴い、従来から運営しておりました「くりっくにつぼん」ウェブサイトを 5 月末にリニューアルオープンします。日本語を学ぶ人、教える人、日本に興味がある人を対象に、いまの「日本」についての情報を多角的、多面的な切り口、多様な視点で発信し、異なる文化に対し共感し尊重する力、寛容性を身につけることをめざしたコンテンツの提供を行います。また、Facebook などソーシャルメディアの活用を検討し、インタラクションにつながる方法を模索します。

■好朋友モデルカリキュラムの開発(新規事業)

2009 年度完成『好朋友』(5 巻)を使った第二外国語(二外)としての日本語教育を中国全土に広げるため、モデルカリキュラムを作成します。2010、2011 年度は、東北三省(吉林省、黒龍江省、遼寧省)の教育行政機関に働きかけました。その結果、各省でモデル校が選定され、二外日本語実施校が増えました。しかし、その実施スタイルは、必修科目、選択科目、課内クラブなど学校によって異なっています。そのため、さまざまな実施スタイルに対応できるモデルカリキュラムの開発が喫緊の課題となりました。二外日本語教育の経験豊かな教師が、日本語教育およびカリキュラム開発の専門家の助言を得ながらモデルづくりを行います。

公 2. 日本の小中高校における外国語教育と多様な文化についての理解を促進する事業

■「外国語学習のめやす」の考え方の普及

2011 年度事業として 2012 年 3 月 3 日に発表した「外国語学習のめやす 2012」(以下「めやす」)は大きな関心をもって迎えられました。「めやす」が提案する新しい外国語教育の考え方や授業づくりの方法をより多くの教師と共有し、日本の高校における隣語(中国語・韓国語)教育の充実をめざして、以下の事業を実施します。

① 「めやすウェブサイト」の公開(新規事業)

学習内容例(語彙、表現、文化事象例)、年間授業計画や単元案などの学習活動例、評価ルーブリック(評価基準表)など豊富な素材を公開し、現場の教師をサポートします。

② 研修の実施と研修用教材の作成(新規事業)

「めやす」完成以前から、全国の中国語、韓国語およびその他の外国語教師と「めやす」の考え方を共有し、活用してもらうための研修を 2009 年度から桜美林大学と共催してきました。「めやす」完成発表を契機に、この研修を初めて大阪に場を移して、関西大学と共催で実施します。

さらに、全国 800 名の中国語、韓国語担当教員と「めやす」を共有するため、2013 年度以降は各地でワークショップ型の研修を予定しています。そのワークショップで使用する教材(「めやす」に基づく授業づくりに必要な理論、実践方法、実践例)を 2012 年度事業として作成します。

公3. 国内外の小中高校生間と教育関係者間の交流を促進する事業

■協働のためのプログラムづくり

2011年度は、沖縄、大阪、台湾等の高校教師が実施する「異なる背景をもつ同世代とコミュニケーションする力、協働する力および ICT リテラシーの育成をめざした外国語教育のモデルづくり」の実践研究に協力しました。2012年度は、TJF が主体となってこのプログラムを進め、途中経過を発表して、他の教師や専門家のフィードバックを得ながらモデルづくりに取り組みます。2013年度には最終的な成果をまとめます。

■互いのことばを学ぶ高校生交流の実施

2012年度は、引き続き長春市の日章学園高校で「互いのことばを学ぶ日中高校生のサマーキャンプ」(漢語橋として第6回、日本語橋として第2回)を実施します。参加人数は日本の高校生 92 名、長春市を中心とした中国吉林省の高校生 46 名を予定しています。コミュニケーションできる中国語・日本語の習得をめざした授業のほか、学んだことばを使って日中の高校生が共同活動を行います。プログラムの作成にあたっては、中国語教育と日本語教育の専門家のほか、ワークショップデザインの専門家のアドバイスを得て、日中の高校生の共同活動を充実させていきます。

この日中の高校生の交流に加え、日韓の高校生の交流プログラム(新規事業)を実施します。K-POP ダンスやポスター制作などを共同で取り組むことで、人と関わる力を身につけることをめざします。

公4. 広報活動

■ファンドレイジングをめざした広報資料の充実

財団を支援してくれる人たちを増やすために、ファンドレイジングのための広報資料の作成やトップページのリニューアルを行います。

2012年度の事業一覧及び各事業計画概要

公1 海外の小中高校における日本語教育と日本の文化についての理解を促進する事業

1. 中国東北三省教育代表団の日本招聘(定期事業)
2. 中国における二外日本語教育の促進(新規事業/定期事業)
3. 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにつぼん」の制作・運営(定期事業)
4. 好朋友ウェブサイトの運営(定期事業)
5. 米国ウィスコンシン州メナーシャ地区日本語教育支援(継続事業)
6. 日本語教育・日本理解事業に関するネットワーク活動(定期事業)

公2 日本の小中高校における外国語教育と多様な文化についての理解を促進する事業

1. 日本の教育代表団の中国派遣(定期事業)
2. 中国語実施校校長の経験交流会(新規事業)
3. 中国語・韓国語教育関連情報提供サイト「Ringo」の制作・運営(定期事業)
4. 「めやすウェブサイト」の制作・運営(新規事業)
5. 高等学校中国語韓国語教師研修の共催(定期事業)
6. 高等学校中国語教師研修の共催(定期事業)
7. 教師研修用教材の作成(新規事業)
8. 外国語教育・多文化理解事業に関するネットワーク活動(定期事業)

公3 国内外の小中高校生間と教育関係者間の交流を促進する事業

1. 世界中の中高校生の交流サイト「つながーる」の運営(定期事業)
2. 協働を生み出すプログラムの開発(継続事業)
3. 日中の高校生サマーキャンプの実施(定期事業)
4. 日韓高校生交流(新規事業)
5. 交流事業に関するネットワーク活動(定期事業)

公4 広報活動

1. 機関誌『国際文化フォーラム通信』の発行とサイトの運営(定期事業)
2. TJFの事業報告と広報資料の作成(定期事業)
3. TJFのウェブサイトの運営(定期事業)

事業名	実施時期	実施場所	事業内容	関係機関/団体
公1 海外の小中高校における日本語教育と日本の文化についての理解を促進する事業				45,853,237円 (内、公1共通費用*25,742,753円)
1 中国東北三省教育代表団の日本招聘 (定期事業) 1,814,595円	2013年3月、5日間、6名程度	東京	第二外国語(二外)としての日本語教育の拡大と浸透をめざし、各地の教育リーダーと二外日本語を開講している、もしくは開講が決まっている学校の校長、二外日本語の拠点校の校長など6名を日本に招聘する。 滞在中、中国語教育を実施している学校や中国籍の生徒が在籍する学校を訪問するほか、教育関係者と意見交換などを行う。こうした交流を通じて、日本の教育・社会・文化への理解を深めてもらい日本語教育への関心を高める。	主催:TJF 助成:三菱UFJ国際財団(申請中)
2 中国における二外日本語教育の促進 ①モデルカリキュラムの開発・カリキュラム作成教師の日本招聘 (新規事業) ②巡回指導 (定期事業) ③中国東北三省日本語教師研修 (定期事業) 3,912,525円	①13年2月、1週間程度、3名 ②7月、12月、1週間程度 ③9月末、2日間、30名程度	①吉林省、黒龍江省、遼寧省、東京 ②吉林省、黒龍江省、遼寧省 ③黒龍江省ハルビン市	中国で二外日本語教育を推進するために次のことを行う。 ①モデルカリキュラムの開発 現在、二外日本語の実施スタイルは、必修科目、選択科目、課内クラブなど学校によって異なる。こうした実情に合わせ、いろいろなタイプに対応できるカリキュラムを開発する。開発にあたっては、まず東北三省の日本語教員と協議して、カリキュラムを作成する教師を各省1名、計3名選ぶ。それぞれカリキュラム案を作成したのち、3名の教師を日本に招聘し、カリキュラム開発の経験豊かな日本語教育専門家と意見交換しながら、モデルカリキュラムを完成させる。 ②二外実施校をフォローし、日本語教師とのネットワークを強化するために、二外日本語を実施している学校を巡回指導する。時期は、9月末に実施する日本語教師研修(公1-4)やカリキュラム開発の打ち合わせの機会を利用して、それらの前後に行う。 ③中国東北三省の日本語教師(一外、二外を含む)を対象に2日間の研修を実施する。外国語を教える意義や目標を参加者間で共有したうえで、それをどのように授業に取り入れるかを実際に授業づくりを体験し共有する。各地域の次世代リーダーとなりうる若い教師とのネットワークづくりもめざす。	①主催:TJF 助成:三菱UFJ国際財団(申請中) ②遼寧省基礎教育教學研修センター、吉林省教育學院、黒龍江省教育學院、TJF 助成:三菱UFJ国際財団(申請中) ③主催:黒龍江省教育學院、TJF 三菱UFJ国際財団(申請中)
3 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにっぽん」の制作・運営 (定期事業) 7,415,059円	通年	TJFサイト	2011年度に日本語教師向け情報誌『Takrabako』『ひだまり』の両誌を休刊し、日本情報発信サイト「くりっくにっぽん」での発信に一本化した。これを受けて、2012年5月中旬に「くりっくにっぽん」ウェブサイトのリニューアルオープンする。日本語を学ぶ人、教える人、日本に興味がある人等を対象に、いまの「日本」についての情報を多角的、多面的な切り口、多様な視点で発信する。Facebookなどのソーシャルメディアの活用方法を検討し、インタラクションにつながる方法を模索する。新しいコーナーは次のとおり。 「特集」日本のリアルタイムな話題を紹介。「カレンダーから見る日本」高校生と大学生が、伝統行事や学校行事など、「特別な日」をどのように過ごしたのかななどをレポート。「行った見たニッポン」旅行で日本にやってきた高校生や大学生、日本に留学している海外の高校生や大学生が発見したすてきなニッポン、ふしぎなニッポンを写真1枚とキャプションで紹介。「道具箱」教師に役立つ情報を紹介。くりっくにっぽんのコンテンツを活用した授業のアイデアなど。 英語圏では、教育省や日本語教師会、中国は日本語教員などを中心に広報を行う。11月にはオーストラリアで開かれる全国レベルの日本語教育大会に参加し、広報するとともに、これからのオーストラリアの日本語教育の中心となる若手教師とのネットワークを築く。	
4 好朋友ウェブサイトの運営 (定期事業) 2,355,100円	通年	TJFサイト	2011年度にオープンした好朋友ウェブの以下5つのコーナーを運営する。 「大連物語」ストーリーマンガと台詞の音声、「Enjoy! マンガ!」マンガの背景にある日本の文化や学校生活を紹介、「かんたん日本Go!」マンガに出てくる簡単な日本語を学ぶ、「世界の中高生に会おう!」世界で日本語を学んでいる中高生を紹介、「先生たちの『好朋友』」教師用指導書や授業案などを掲載。	

*各公益目的事業に係る費用(給料手当、福利厚生費、消耗品、賃料など)

5	米国ウィスコンシン州メナーシャ地区日本語教育支援 (継続事業) 2,991,685円			米国の初等中等教育における日本語教育の拠点地域を存続、発展させるため、ウィスコンシン州メナーシャ市メナーシャ合同学区が推進する「21世紀のスキルの育成をめざした日本語教育プログラム」に対し、2011年度から3年度にわたり、講談社の特別寄付金として年額200万円を寄贈する。2012年度は、その寄付金でメナーシャ合同学区が実施する日米の生徒の交流活動に協力する。学区が2012年度に実施を予定している交流活動は、①高校生の日本派遣(6月)、②特技(漫画、日本の伝統芸能など)をもった日本の高校生4名の招聘(2013年3月)	特別寄付:講談社
6	日本語教育・日本理解事業に関するネットワーク活動 (定期事業) 1,621,520円	通年	東京、北海道、愛知など	日本語教育学会春季大会(5月・東京)・秋季大会(10月・北海道)、日本語教育国際研究大会(ICJLE、8月・名古屋)をはじめ、日本語教育関連の大会・研究会・会合に参加し、関係者とのネットワークを図る。	
公2	日本の小中高校における外国語教育と多様な文化についての理解を促進する事業				41,688,056円 (内、公2共通費用*24,081,932円)
1	日本の教育代表団の中国派遣 (定期事業) 2,438,396円	11/21-25	中国 山東省青島市	高校中国語教育の定着と拡大のためには、各都道府県の教育行政者や学校の管理職の理解と支持が必要である。これら関係者の中国語教育に対する関心を喚起するため、2008年度から、中国への派遣事業を企画・実施している(主催は中国国家漢弁)。2010年度から2012年度の三年の実施については、国家漢弁と協議書を交わしている。2012年度も引き続き文部科学省の協力を得て、参加者を全国公募する。代表団は中国滞在中、教育行政者、教師との懇談や生徒との交流などを行い、参加者の中国に対する理解を深めてもらう。2011年度までに59名を派遣。中国語講座の新規開講や休講していた講座復活のきっかけとなっている。往復国際航空運賃(ANAの協力による特別価格)や保険料など実施費用の一部は参加者の負担。現地での滞在費は中国政府負担。	主催:中国国家漢弁 実施:TJF 助成:在日本中国大使館教育処(申請中) 協力:文部科学省(申請中) 輸送協力:ANA
2	中国語実施校校長の経験交流会 (新規事業) 420,700円	10/19-20、15名	岐阜県	2008年度から実施している教育代表団の中国派遣事業で構築した中国語実施校の校長とのネットワークを、継続した情報交流につなげるために、派遣事業参加者を中心とした、中国語開設校校長の経験交流会を実施する。交流会は開催地の教育委員会の後援のもとに実施し、当該地域における中国語教育の促進をめざす。参加者は、高校で中国語の授業見学を行うとともに、高校に中国語教育を導入する意義などについて意見交換を行う。また、上記中国派遣事業の参加予定者のための事前研修としても位置づける。	主催:TJF 助成:在日本中国大使館教育処(申請中) 後援:岐阜県教育委員会(申請予定)
3	中国語・韓国語教育関連情報提供サイト「Ringo」の制作・運営 (定期事業) 597,400円	通年	TJFサイト	2011年度には、中国語教育情報発信サイト「小溪」と韓国語教育情報発信サイト「隣語」を統合し、「Ringo」ウェブサイトを開発した。2012年度は既存コーナーのうち「Ringo通信」(中国語・韓国語教育に関連する情報の提供)、「注目の1枚」(中国や韓国に関連する写真と文化背景の解説を提供)、「教師の輪・話・和」(高校の中国語教師や韓国語教師が書く自分とそれぞれの言語との関わりなどのエッセーを掲載)の充実を図りながら、「校長の出番」(中国語・韓国語の導入を決定した校長の経験を掲載)を立ち上げる。	
4	「めやすウェブサイト」の制作・運営 (新規事業) 1,264,000円	通年	TJFサイト	2011年度に公開した「外国語学習のめやす2012」(以下「めやす」)は冊子とウェブサイトにより全体が構成されている。2012年度は、「めやすウェブサイト」をオープンし、学習内容や活動例、授業案など、豊富な素材を公開し、現場の教師をサポートし、「めやす」の普及をめざす。	

5	高等学校中国語韓国語教師研修の共催 (定期事業) 3,013,238円	8/3-8/7	大阪	TJFが公開した「めやす」の基盤となっている外国語教育の理論と考え方を全国の中国語、韓国語およびその他の外国語教師と共有し、活用してもらうことを目標とする研修を2009年から桜美林大学と共催している。2012年度は初めて関西大学と共催で大阪で実施する。 前半3日間は、広く高等学校を中心とした外国語担当教師を対象とし、當作靖彦氏(主任講師、カリフォルニア大学サンディエゴ校教授)による、外国語教育の目標設定・内容・方法に関する考え方や、学習者がコミュニケーション能力を獲得するための授業づくりについての講義とする。3日めは、ニーズの高い「評価」をテーマとした講義を実施する。後半2日間は、中国語教師と韓国語教師のみを対象に、「めやす」の考え方に基づく評価づくりにグループで取り組む。受講料は参加者負担。	主催:関西大学、TJF 特別共催:在日本中国大使館教育処、駐日韓国大使館韓国文化院、駐日韓国大使館韓国文化院世宗学堂(申請中) 後援:文部科学省(予定)
6	高等学校中国語教師研修の共催 (定期事業) 433,480円	7/24-8/6、20名	中国長春市	中国教育部、中国国家漢弁、文部科学省、TJFの共催で、2004年から5か年計画で始まった高校中国語教師の中国研修。中国語のコミュニケーション能力の向上と教授法習得、中国文化理解を深めることをめざす。第5回終了後もニーズがあったことから、吉林大学と協議の上、継続することを決定。2010年度から今年度までの三年の実施について、TJFと国家漢弁と協議書を交わしている。定員20名を全国公募の予定。現地集合・解散、往復交通費は参加者負担。現地での研修費用、滞在費は中国政府負担。2012年度は初の試みとして、韓国の中国語教師と合同での研修を実施する。	主催:中国教育部、中国国家漢弁、文部科学省、TJF 助成:在日本中国大使館教育処(申請中)
7	教師研修用教材の作成 (新規事業) 6,701,564円	通年	東京	「めやす」が提案する新しい外国語教育の提案を授業活動に取り入れてもらうためには、研修が不可欠である。2009年から中国語韓国語教師研修をスタートしているが、年に一度、一カ所の実施では、全国で800名いと推定される中国語、韓国語担当教員と「めやす」の考え方を共有することは難しい。その課題を解決するため、2013年度以降は全国各地でワークショップ型の研修開催を予定している。 2012年度はワークショップで使用する教材の作成を行う。研修の主任講師である當作靖彦教授を監修者に迎え、これまで研修に関わった講師の協力も得て、「めやす」に基づく授業づくりに必要な理論、実践方法、実践例をまとめる。	
8	外国語教育・多文化理解事業に関するネットワーク活動 (定期事業) 2,737,346円	通年	日本国内各地	高等学校中国語教育研究会(高中研)、中国語教育学会、高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク(JAKEHS)、朝鮮語教育研究会など、国内の中国語や韓国語をはじめとする外国語教育関連の研究会や会合等に参加し、ネットワークづくりと情報交流を行う。 また、「全日本中国語スピーチコンテスト」(日中友好協会主催)で高校生に国際文化フォーラム賞を贈るほか、「漢語橋世界中高生中国語コンテスト」の予選大会、「話してみよう韓国語」地方大会高校の部、高等学校中国語教育研究会各支部主催の学習発表会に対して後援、協力を行う。	
公3	国内外の小中高校生間と教育関係者間の交流を促進する事業				42,587,344円 (内、公3共通費用*22,421,108円)
1	世界の中高校生の交流サイト「つながる」の運営 (定期事業) 1,417,550円	通年	TJFサイト	SNSを使った交流サイト「つながる」には、国際交流に関心のある国内外の中高校生、日本で外国語を学習している中高校生、海外で日本語を学習している中高校生など、約20か国から1,500名が参加している。 TJFの出版物やウェブサイト、メーリングリスト、メール等を通じて、国内外の教師・関係者への広報を行い、参加者の維持・拡大につなげる。	
2	協働を生み出すプログラムの開発 (継続事業) 3,935,950円	通年	沖縄、大阪、台湾など	2012年度は、中高校生がさまざまな背景をもつ人たちと、つながり、コミュニケーションする場、および、協働のプロセスを体験できるプログラムを提供する。具体的には、沖縄、大阪、台湾等の高校教師の協力を得て、外国語や課外の国際交流活動などの時間を使った協働プロジェクトを実施する。プロジェクトに中国語や英語などの外国語を使ったコミュニケーション、ICTを使ったコミュニケーションや創造・表現活動などを組み込む。 外国語教育関係者や情報教育関係者等が集まる研究会などで途中経過を発表・共有する機会をもちフィードバックを得る。2013年度に最終的な成果をまとめ発表する。	関係機関/団体:沖縄県立向陽高等学校、羽衣学園中学高等学校、高雄市立高雄高級工業職業学校など

3	日中の高校生サマーキャンプの実施 (定期事業) 12,277,886円	7/23-8/2	中国長春市	2007年度から、中国国家漢弁主催の「漢語橋高校生サマーキャンプ」の一環として、TJFは「漢語橋：日本の高校生サマーキャンプ」を企画・実施し、中国語を学ぶ日本の高校生92名と引率教師・事務局8名を含む計100名を中国に派遣してきた。昨年度よりこのサマーキャンプの実施にあわせて、日本語を学ぶ中国の高校生のためのサマーキャンプを同時に開催している。 2012年度は、2011年度に続き長春市の日章学園高校で「互いのことばを学ぶ日中高校生のサマーキャンプ」(漢語橋として第6回、日本語橋として第2回)を実施する。実施期間は、7月23日(月)～8月2日(木)、参加人数は日本の高校生92名、長春市を中心とした中国吉林省の高校生46名を予定。コミュニケーションできる中国語・日本語の習得をめざした授業と、学んだことばを使って日中の高校生が共同活動をする。長春市内の高校生宅訪問、買い物体験、市内見学などを組み込んだプログラムとする。 参加する日本の高校生は往復国際運賃(ANAの協力による特別価格)、保険料など実施費用の一部を負担。現地での滞在費は中国政府負担。	●漢語橋(日本で中国語を学ぶ高校生のためのプログラム) 主催:中国国家漢弁 実施:TJF 受け入れ機関:長春日章学園高校 助成:双日国際交流財団(申請中) 協力:文部科学省(申請予定) 後援:外務省(申請予定) 特別協力:ANA ●日本語橋(中国で日本語を学ぶ高校生のためのプログラム) 主催:吉林省教育学院、TJF 助成:国際交流基金北京日本文化センター(申請予定)、双日国際交流財団(申請中)
4	日韓高校生交流 (新規事業) 1,282,780円	3月、5日間	韓国ソウル	日本で韓国語を学ぶ中高校生と韓国で日本語を学ぶ中高校生の交流プログラムを秀林文化財団と共催で実施する。参加者は、日韓ともに中高校生各6名。期間中はK-POPダンスやTシャツデザイン、ポスターの制作など、中高校生が関心をもつ共同活動を中心に、その活動や互いのコミュニケーションのための韓国語の習得をめざした授業を実施する。 日本側参加者は往復国際運賃、保険料など実施費用の一部を負担。	主催:秀林文化財団、TJF 協力:ソウル大学言語教育院(申請中)
5	交流事業に関するネットワーク活動 (定期事業) 1,252,070円	通年	東京、埼玉、大分など	TJFが交流事業を推進していくためには、交流学習や国際理解教育、異文化間教育、情報教育等の分野における国内外の教師や専門家とのネットワークが重要である。海外に日本語教師として派遣された日本の小中高校教師を会員とする国際教育ネットワーク/REX-NETの活動に協力するほか、異文化間教育学会全国大会や日本国際理解教育学会研究大会、情報教育関連の研究会やセミナーなどに参加し、関係者とのネットワークづくりと情報収集を行う。	
公4	広報活動				19,889,903円 (内、公4共通費用*10,795,352円)
1	機関誌『国際文化フォーラム通信』の発行とサイトの運営 (定期事業) 3,207,888円	4月、7月、10月、1月 A4判、2色、16頁、年4回、4,600部	日本国内、海外、TJFサイト	2012年度も引き続き、事業と関連するテーマで特集を構成する。94号では、公益とは何かをテーマにした特集を、2012年3月に実施したシンポジウム「未来を生きぬくための外国語教育」について考える特集を予定している。	
2	TJFの事業報告と広報資料の作成 (定期事業) 1,319,588円	①事業報告 日:A4判、36ページ、4色、8月発行 英・中・韓:A4判、8ページ、一部カラー、9～10月発行 ②A5判、16ページ、4色、2,000部	日本国内、TJFサイト	①日本語版『事業報告』では2011年度実施事業の成果を報告し、今年度の主要事業について展望を示す。日本語版700部、英語・中国語・韓国語版を各100部制作し、関係者に配布するとともに、ウェブサイトに掲載して広く公開する。 ②ファンドレイジング用のカラーパンフレット(日本語版)を新規に2,000部制作する。	
3	TJFのウェブサイトの運営 (定期事業) 4,567,075円	通年	TJFサイト	動画の提供に伴う通信量の増大、クラウド上のサービスの利用を想定し、基幹通信回線の変更、通信機器やファイルサーバーの入れ替えなどを行う。また、個人情報保護法遵守の観点から、管理体制やネットワーク機器類を増設する。 また、ファンドレイジングを視野に入れたトップページのリニューアルを行う。 TJFのウェブサイトのユーザーである中国在住者が、TJFウェブの動画やFlashが見られない、アクセスに時間がかかるなどの問題が発生している。この問題を解決するために、日中合弁企業のレンタルサーバーを利用し、中国国内にウェブサーバーを設置する。	